

寅さん歩 その 24

半径 30 分以内-15

西巢鴨の史跡



平野 武宏

「寅さん歩 半径 30 分以内」は 2020 年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の中での新テーマです。八柳修之さんの「STAY HOME 半径 500m 以内」からヒントをいただき、自宅から 30 分以内で歩いて行けるマイお散歩コースです。半径 30 分以内-13 で「庚申塚通り」を歩きましたが、自粛生活の整理で引っ張り出した「豊島区文化財マップ」で「庚申塚通り」の脇を入った所には、まだ史跡があることを知りました。今回は残った西巢鴨地区の史跡を歩きます。写真右上は「庚申塚通り」で、左が都電荒川線（王子方面）庚申塚停留場です。前方左の電柱の先を左折し細い道を進みます。今回の史跡はしっかり見ていなかったもので、コロナ禍で始めた「半径 30 分以内のお散歩」に感謝です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[明治女学校跡] 豊島区西巢鴨 2-14-11

細い道を入ると左側に「東京大学豊島国際学生宿舎」、右側に高齢者福祉施設「菊かおる園」があります。突き当りは「区民ひろば西巢鴨第二」で前に「明治女学校之址」の碑と説明板がありました。



説明板には「明治女学校は、明治 18 年（1885 年）に、麴町区飯田町（現・千代田区）に、女子の「自覚と自立」の高等教育を目指して、木村熊二・鑑子夫妻、巖本善治、田口卯吉、植村正久、島田三郎らによって設立されました。教師には、津田梅子、島崎藤村、北村透谷などが名を連ねていました。明治 29 年（1896 年）に、校舎が焼失し、翌 30 年、巣鴨村大字巣鴨 660 番地（現在の西巣鴨 2 丁目 14・29～31 番）に移転してきました。移転時の校長である巖本善治は、女学校での実践教育の一方、「女学雑誌」で啓蒙活動を行いました。この雑誌から「文学界」が生まれ、浪漫主義文学を牽引していきます。卒業生には、新宿中村屋の創業者の相馬黒光、自由学園の創始者の羽仁もと子、作家の野上弥生子などがあり、日本の近代史に名を残す多くの人材を輩出しました。しかし、巣鴨移転後の経営は苦しく、生徒数の減少もあって財政状況が悪化し、明治 41 年（1908 年）に閉校することになります。閉校後、時代がくだると、明治女学校設立の意義を後世に伝える活動が行われるようになり、昭和 37 年（1962 年）に、巖本善治の生誕百年を記念して巖本記念会が設立され、地元の熱い要望を受けて、昭和 56 年 10 月 18 日に記念碑が建立されました」と記載。

注：巖本善治は孫の真理（ヴァイオリニスト）と共に染井霊園に眠っています。

〔大日堂〕 豊島区西巣鴨 2-15-21

明治女学校跡の先を左折すると正面は西巣鴨小学校です。右折して右側が写真下左の大日堂入口です。階段を上がると正面が大日堂（写真下右）です。



豊島区文化財マップには「大日堂は、徳川幕府二代将軍秀忠とその夫人徳子に仕えた春海和尚により、承応二年（1653 年）にお二人の菩提を弔うために建立されたものであり堂内には像高約 1 メートルの石造り大日如来坐像が安置されている。明治 38 年（1905 年）伊藤証信が仏教改革をめざし、修善を説いた無我愛運動をここで始めた」と記載。大日堂脇の説明板には「大日堂を「無我苑」と

称し 9 ヶ月にわたって同志とともにここで自炊生活を営んだ。証信の唱える無我愛とは一つの宗教・思想にとらわれず、あらゆる宗教・思想の根源を究め、宇宙の絶対真理すなわち無我の愛を活動の基本にするものである」と記載。寅次郎には少し難しい説明でした。大日堂の左側には明暦 2 年(1656 年)の庚申塔(写真下左)が文化財となっていた。その奥の小屋(写真下右)には石像がありますが、近所の人のお話では大日堂建立予定地にあり、移動したとのこと。



〔マハヤナ学園跡〕 豊島区西巣鴨 2-36-17

豊島区文化財マップには「宗教大学社会事業研究室にいた長谷川良信が大正 7 年(1918 年)から託児所・夜学・人生相談・医療などの総合的社会事業を行った」と記載。寅次郎、初めて訪れる場所なので住所を頼りに探すと、区民ひろば西巣鴨第二の前にある、淑徳巣鴨中学高等学校第二体育館(写真下)の塀に「マハヤナ学園跡」の説明板がありました。説明板には〔マハヤナ学園は、かつてこの付近にあった貧困層が多く住む「二百軒長屋」と呼ばれる地域に社会事業家 長谷川良信によって創設された社会事業施設である。マハヤナとはサンスクリット語の「大いなる乗物」を意味する言葉で仏教思想を根底にした社会事業を展開していった(一部略)〕と記載。家に帰って調べたら、跡地にある淑徳巣鴨中学高等学校は



その流れを汲んだ学校で卒業生には白血病を克服した水泳選手の池江璃花子さんがいました。現在のマハヤナ学

は白血病を克服した水泳選手の池江璃花子さんがいました。現在のマハヤナ学

園の本部は板橋区前野町にあるとのこと

今回の「こぼれ話」は寅次郎の自宅の裏にあり散歩でよく通過する場所で、豊島区文化財マップに載っている史跡と再認識し、今回「こぼれ話」に取り上げました。まさに「寅さん歩」での「こぼれた話」だと苦笑の寅次郎です。

【こぼれ話-1】 菅原神社(子安天満宮)

豊島区北大塚 1-7-31



豊島区文化財マップには「天文年間（1532年～1555年）三河から巢鴨村に移り住んだ旧家の保坂家が、屋敷神として東方台地に勧請したという。天満宮にちなみ、この辺り一帯は天神山と呼ばれた」と記載。「子安とは子育て」を意味するとのこと。女性が時間をかけてお参りしている姿を見かけます。

祭神の菅原道真公にちなんで植えられた紅梅と白梅が見事に咲きます。

寅次郎、2012年に移住して来てからは「初詣は氏神様から」と大塚駅前の「天祖神社」と自宅裏の「菅原神社」には元日の早朝初詣に来ています。

神前にはお賽銭箱がなく、扉の隙間から中の箱に落とす方式です。ある年、寅次郎がお参りの時に千円札が足元に落ちているのを見つけて、隙間に入れ直したことがありました。寅次郎の前に来た参拝者が扉の隙間に入れたつもりが中に落ちずに、足下に落ちたと思われます。自分のお賽銭のほかに千円札をお賽銭に入れる快感と年の初めの善行体験で、その年は「吉多い1年間」でした。

【こぼれ話-2】 巢鴨公園 豊島区北大塚 1-12-10

こちらはもっと近い裏の公園です。豊島区史跡めぐり資料には「日露戦争の戦傷者を収容した廃兵院の跡地の一部で、その碑がある。江戸時代松平播磨守屋敷だった。明治時代に宍戸子爵邸となり、植木屋 内山長太郎が植えた紅葉並木は、東都随一の名所といわれた」と記載。公園は二段になっていて、気がつかないのですが、上の段に碑がありました。また、よく見ると紅葉並木の名残も発見しましたが、寅次郎、公園内の桜しか見たことがありませんでした。

今年の秋には心を込めて眺めます。写真下左は公園下段（左の木は桜です）、写真下右は公園上段に上る石段です。



写真下左は公園上段にある「廃兵院の跡」の碑、右は公園上段の紅葉並木の名残です。



寅さん歩 358 半径 30 分以内—6 さくら散歩道—1 ご覧ください。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「日光道中二十一次」を終え、宇都宮に戻り、バーチャルウォーク「奥州街道を竜飛岬まで」に挑戦です。「奥州街道」の日本橋から宇都宮までは「日光街道（道中）」と共用なので宇都宮を出発点としました。2020年12月23日栃木県宇都宮市を出立、2021年6月18日、岩手県一戸宿手前20km地点（江戸から599km）に到着しました。

新型コロナウイルス感染拡大で例会が中止となっています、運動不足にならないように自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバ

ーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないようご注意ください！

平野 寅次郎 拝